

ぎょうむそくほう 【ダイジェスト】

No.713

2026年7月31日

東海旅客鉄道労働組合

<https://www.jrtu.jp>



「ハートフルカンパニービジョン ⇒2027」の取り組み推進！

2026年度第1四半期決算について確認

7月31日、2026年度第1四半期決算の発表を受け、速やかに会社に問い合わせ、確認を行ったところ以下の説明を受けた。

当第1四半期の運輸収入は、前年度の大阪・関西万博の開催に伴う増収がなくなった一方で、ビジネス、観光に加え、訪日外国人のご利用が増加したことにより増収となった。さらに、グループ会社についても増収となり、営業収益は増加。一方、当社及びグループ会社における労務費等の上昇により営業費が増加したことなどから、営業利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となった。なお、通期の業績予想については、前回予想を据え置くことを確認した。

会社は2026年度の業績について、大阪・関西万博の開催に伴う増収効果がなくなることや、労務費等の上昇に伴う費用の増を織り込み、減収・減益の予想としている。一方、第1四半期の運輸収入が業績予想における想定を上回る前年度比101.2%となったのは、組合員が業務に精励し、安全・安定輸送の確保に努めたことの証左である。

引き続き、会社が2026年度を減収・減益と見込む中であっても、鉄道の原点であり、全ての施策の大前提となる安全の確保を最優先とし、「業務改革」と「収益の拡大」の2つを柱とした経営体力の再強化に取り組むことを確認した。

JR東海ユニオンは『将来宣言』に基づいた労使関係をより強固にし、率直な意見交換を重ね、JR東海グループが一体となって、様々な課題の解決に主体的に取り組んでいく。

□2026年度第1四半期 連結決算の概要

	実績	前年度との差異	前期比
営業収益	4,927億円	+144億円	103.0%
営業費	2,735億円	+164億円	106.4%
営業利益	2,191億円	▲20億円	99.1%
経常利益	2,085億円	+10億円	100.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,426億円	▲25億円	98.2%

※確認内容の詳細については、後日発行の「ぎょうむそくほう」をご確認ください。